

編集部 = 竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

## 十人十色ひろば

今回は山歩き部会のリーダー **高田俊洋さん** (5期生) です

今号は4頁

受講終了後8年、現在は山歩き部会の世話役として、皆さんと登山を楽しんでいます。登山の楽しさは  
①四季折々の自然を体感 ②登頂の達成感 ③雄大な眺望 ④山ごはん ⑤山仲間との連帯感など。  
付録として、**下山後のビール** (笑) です。

私は退職後の10年間は、関西の山々や信州アルプス等の高山に登り、山の楽しさを満喫してきました。しかし今年の夏山登山は、コロナで山小屋閉鎖になり、残念ながら中止に。皆さんも最近は運動不足になりがちと思いますが、機会を見つけて山に登り、お互いに体力維持に努めましょう。

**編集部** 細長い体型からは想像もつかない強靱な登山パワーの持ち主。

飄々とした雰囲気で見え易いが、冷静沈着で頼りになる山歩き部会のリーダーです。

部会事務局の山崎さんと名コンビで山歩き部会の皆様を支えて下さっています。

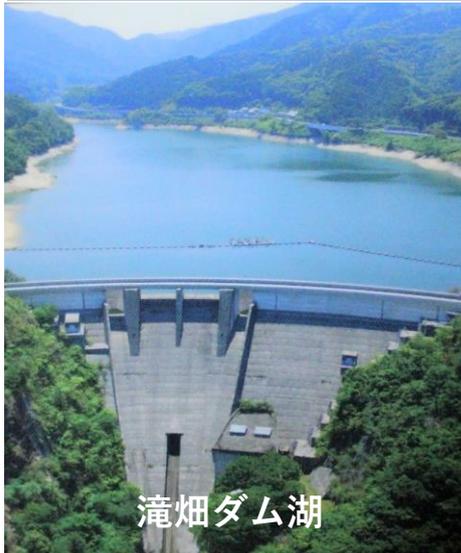
リーダーの言われるように山は楽しいことづくめ。部会の皆さん、自身の体力に合わせ楽しんでおいでです。



## しぜん訪ねて

### 滝畑ダムあれこれ

私たちになじみ深いダムについて**TMさん**のレポートです



滝畑ダム湖

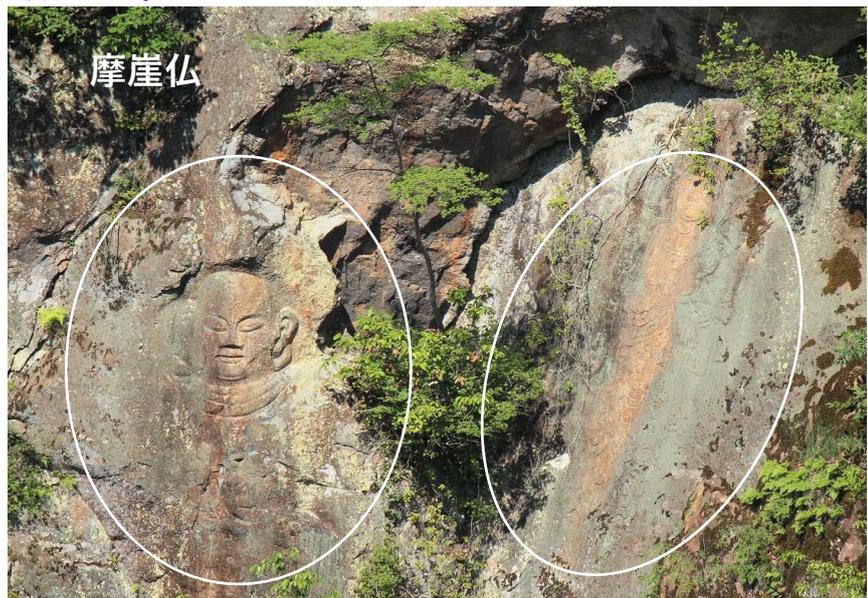
滝畑にダム計画が持ち上がったのは昭和37年頃。ダム湖に沈むことになる滝畑の人たちとの話し合いが重ねられ、計画から20年を経て昭和57年竣工した。洪水調整、灌漑用水、そして河内長野、富田林両市の上水道水源の役割を担う大阪府最大の多目的ダムだ。

ダム堰堤から、200m先下流右岸の岩肌に摩崖仏が見える。地藏菩薩と、双眼鏡があれば観音菩薩も判る。長野郵便局長であった夏目庄吉氏が大正末期から6年余り毎日長野の自宅から10kmの山道を自転車で通い、彫ったという。一説では高野山へ続く道が険しく危険で命を落とす人もあったため、旅人の安全祈願・鎮魂のため、信仰心の強い夏目氏は一念発起してこの深山幽谷の岩肌に挑んだと言われる。

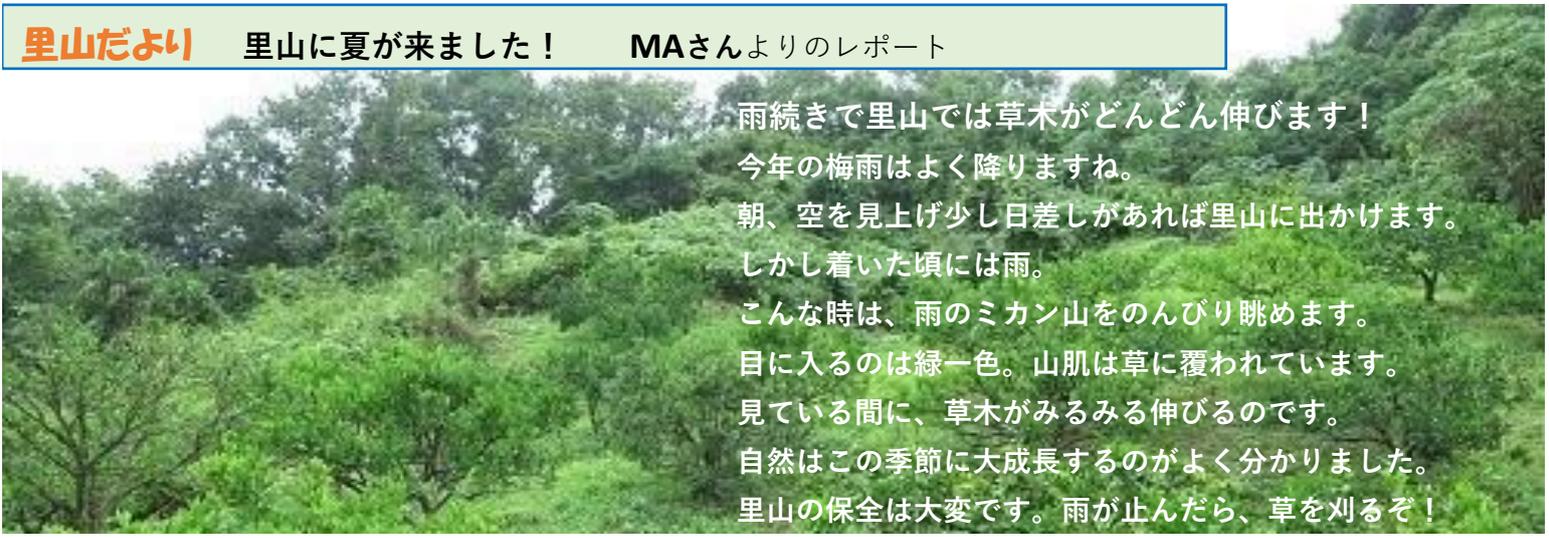
例年夏季にはダム堰堤の内部見学ができる人気の**ダム探検**が企画されている。

そこは年間を通じて18℃前後という、夏場は絶好のクールスポットだが、今年はコロナ禍の為、実施は見送られる。

大阪みどりの百選に選ばれた「滝畑ダムと四十八滝」、ダム湖周辺は散策するのも快適だ。余談ながら、ダム湖底で熟成された純米吟醸酒(天野酒)は河内長野市ふるさと納税の返礼品になっている。(TM)



摩崖仏



雨続きで里山では草木がどんどん伸びます！  
 今年の梅雨はよく降りますね。  
 朝、空を見上げ少し日差しがあれば里山に出かけます。  
 しかし着いた頃には雨。  
 こんな時は、雨のミカン山をのんびり眺めます。  
 目に入るのは緑一色。山肌は草に覆われています。  
 見ている間に、草木がみるみる伸びるのです。  
 自然はこの季節に大成長するのがよく分かりました。  
 里山の保全は大変です。雨が止んだら、草を刈るぞ！

春にワラビを採った畑では、生い茂る草の中、可憐な夏の花が咲きました。ヌマトラノオと言います。ハイキング、山歩きでよく見るオカトラノオと同じ仲間です。花穂（穂状の花）が小さく、まっすぐに伸びているのが特徴です。



ヌマトラノオ



湿地に育つのでヌマトラノオという名だそうです。可愛い花です。  
 ヒメトラノオとかにすれば良かったのに！  
 畑に種を撒いたヒマワリが咲きました。夏は来ぬ！



野鳥このごろ

長年野鳥観察を続けるMKさんからのご便り

今回は小さな鳥・ムシクイです

日本に夏鳥として渡って来るムシクイの仲間は、鳥の中でも超軽量級で、センダイムシクイやメボソムシクイの体重は10.5gほど、またエゾムシクイは9.5gさらに旅鳥のカラフトムシクイは6.5g、キマユムシクイは7gと軽量ベストテンに全て顔を揃えるほどです。

この体重でこの仲間の多くは東南アジアから遠くはシベリアの最北まで渡るので、これだけの長距離をよく飛べるものだと吃驚させられます。

日本では、メボソが高山で、エゾは高山から低山にかけて、センダイは低山で夏期に繁殖します。



センダイムシクイと頭中央線

大阪でもこの3種は春秋の渡りの時期に、市街地の公園や雑木林でよく観察されますが、この仲間は見た目が皆そっくりで動きが速く、その識別はバーダ一泣かせです。

しかし、各囀りが違ってそれが確実な識別方法となります。

センダイムシクイはチヨチヨ・ヴィーと囀り「焼酎一杯グイー」と聴きなしされ、



メボソムシクイ



エゾムシクイ

呼び名も鳴き声のチヨが千代となりセンダイそして仙台となったようです。

メボソの囀りは濁った声でチヨリチヨリチヨリチヨリ「銭取り、銭取り」、エゾムシクイは金属的な声でヒツキヒツキ・ピー「日月・日月ピー」と覚えて下さい。囀らなければ、識別ポイントは頭に線があれば、センダイムシクイですが、下から見上げた時には余り役に立ちませんね。上面が緑色の強いオリーブ色であれば、センダイムシクイ、上面一様に緑褐色はメボソかエゾ、そして眉班や翼帯、下面がセンダイ、メボソは黄色掛かっており、エゾは白く、足がピンクです。又、エゾムシクイは尾をよく振るくせがあるようです。

子孫を残すための戦略・・・ツククサ

梅雨に入り、毎朝目にするツククサ。鮮やかな青い花と黄色いおしべのコントラストが美しい。朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられたとあるが、諸説あるらしい。子供の頃、ままごとをしながらこの花をコケッコウの花と呼んでいたのを思い出す。鶏のように早朝に咲くからと勝手に思ったが、どうだか・・・？今回は弱々しくも遅しい、ツククサの子孫をつなぐ為の戦略を見てみよう。

多様な子孫を残す為には他家受粉、確実に子孫を残す為には自家受粉がよい。



ツククサは開花した花で、両方の仕組みを持つ植物です。花は早朝に咲き昆虫が花粉を運んでくるのを待ちます(他家受粉)。おしべは6本、3つのタイプがある。上の3本は花糸が短く、葯がX字形。真ん中の一本はY字形。これらのおしべは鮮やかな黄色の葯を持ち、虫の注意を引くことが主な役割。ほとんど花粉がない(Y字形には少しある)。下の2本のおしべは卵円形の葯を持ち、O形。長い花糸を伸ばし、葯には多くの花粉がある。昼前、花が閉じはじめる。おしべ、めしべは共に、くるくると丸まりながら縮んでいく。しぼんだ花卉の中で自家受粉。ツククサの受粉は更に念いり。開花前、蕾の中でも自家受粉しているようだ。(AF)

野の花このごろ

今回はこれからピークとなる 山のユリの花について MKさんより

山のユリはササユリを除いてこれから開花のシーズンを迎えます。日本には野生種が15種、日本固有種が8種自生していますが、野生とは思えないほどの香りと大輪の花を付けるヤマユリやコノユリ、清楚で美しいテッポウユリ等の花が咲き、これらは欧米に持ち込まれ栽培品種の母株となったのも頷けます。

ユリは多年草ですが、実生から開花まではヤマユリで5年以上、コオニユリは6～8年、ササユリで7年以上かかります。花が咲くまでこれほどに年月を要しますので、咲いた花はことさらに愛おしいですね。ちなみにタカサゴユリの開花は1年です。

オニユリは3倍体ですので種子はできませんが、代わりに珠芽繁殖(シュガとはむかごのこと)をし、3年位で開花します。そのユリ根は古くから食用とされてきました。ヤマユリやコオニユリからもユリ根を取りますが、オニユリは成長が速いことから多く栽培され、それが野生化したものとも言われています。



ヤマユリ



コオニユリ



テッポウユリ

ユリの花びらは6枚あるように見えますが、外側にある3枚は萼で、外花被と呼びます。内側の3枚が本来の花びらで、内花被です。

和泉金剛山系ではヤマユリ、コオニユリ、オニユリの3種を見ることができます。中でも金剛山に咲くヤマユリはコゴセユリと名付けられ、この季節、多くのハイカーの癒しとなっているようです。

7月 礼文島 (れぶんとう) レブンウスユキソウ

礼文島は遠い。日本の北端、稚内からでも更に2時間近い船旅を要す**最果ての島**です。

関西からだとな途方もない時間がかかりますが、それでも人生一度はこの島を訪ね、気ままにトレッキングされることをお勧めします。

長い冬の間 風雪に閉ざされた島が遅い春を迎えると、海岸にはアザラシが訪ね来て、陸では花々が一気に咲き始めます。高原は高山植物の花々で埋め尽くされ、時にはビュウと、時には優しく風が吹き渡ります。

標高500mにも届かない nadarakan 島には、七つの高原トレッキングルートが整備され、いづこも**天国の花園をさまよっているのか**と思う心地よさです。私のように現世での行いが悪く 天国に迎えて頂ける確信が持てない者でも、生きている間に疑似天国を味わえた貴重な体験でした。



朝露とレブンウスユキソウ

ただ、私が礼文に向かったのはそのためではなく、花の名前「レブンウスユキソウ」の持つ、儂げで健気なイメージにキュッと心を掴まれてしまい、柄にもなく「**ウスユキソウに会いたい!**」と欲していたことでした。全身に朝露を纏い 風に揺らぐ**レブンウスユキソウ**は小さくて、とても**地味で毛深い花**。それでも傍に佇み「キミに会いたくてはるばる来たよ」と語りかけながら、氷河期から連綿と続く花の歴史を思い遣ると、その健気さに心打たれます。

礼文町の人々は、多くの色彩豊かで美しい固有種の花々を退け、最も地味なこの花を「町花」に選びました。きっと、**風雪を耐えて生き延びることの尊さ**を身をもって感じておられるからではないか、と思います。

自然カレッジの山歩き部会で初めて山歩きを教わり、北アルプス始め多くの「花の道」に巡り会いましたが、**花の多彩さ・多さ、平坦で歩き易い道、海の景色、利尻島の眺め**等々この礼文に敵う道はない、と思います。

6月末～7月初めの短期間、今一つ礼文を代表する名花**レブンアツモリソウ**も同時に楽しめる時期があります。



レブンアツモリソウ

花と併せ、最果ての島に住む方々の清々しい優しさもまた、得難いものでした。宿の女将は「花の季節、お客様で忙しく、まだ一度も花を見てないのです」と笑ってましたが、コロナの今年、花の高原に女将の姿があったかも知れませんね。(けん)



礼文島に咲く色とりどりの花々

私のイチオシ講座

SNさんよりのお薦め

伊吹山高山植物観察

伊吹山は「日本百名山」の一つで滋賀県最高峰の山。標高1377mの山頂は麓より8~10° 低く、夏でもひんやり。また高山植物の宝庫で、**山頂一帯だけでも約350種の高山植物**が見られます。

伊吹山の花畑のみに自生する瑠璃(るり)色の**ルリトラノオ**や**シモツケソウ**など貴重な花に出会えます。



ルリトラノオ



伊吹山を代表する花：シモツケソウ



コオニユリ